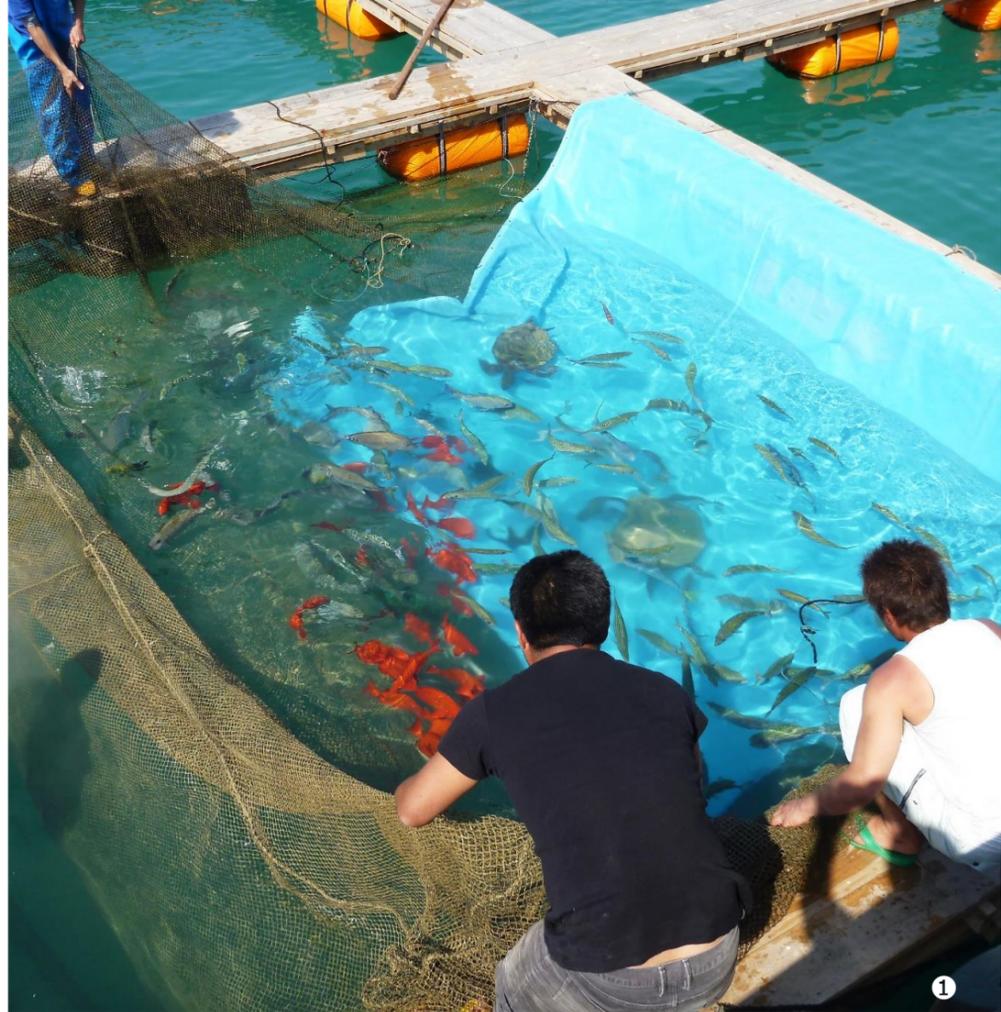


農林中金  
理事長賞

地域の産業とともに成長を  
「食べられない魚」も活かす。  
観賞用魚の輸送販売！



くにがみ  
**国頭地区** 地域水産業再生委員会  
(JF国頭)

全国でも珍しい観賞用魚の出荷販売。水族館を運営する外部組織のノウハウと漁業の知恵を融合させ、様々な事業を展開。地域産業全体に大きな効果をもたらしている。

①②③④⑦ 観賞用魚の出荷作業の様子  
⑤ 出荷される観賞用魚  
⑥ 蓄養生簀での作業の様子  
⑧ 定置網漁の様子  
⑨ 漁協直営の国頭港食堂

**定置網にかかる食用外の魚の活用**

国頭漁業協同組合の定置網漁は、平成元年の台風で定置網が大破して操業を停止していた過去がある。紆余曲折を経て、平成24年に操業を再開し、メ・裁きや売り方の工夫などによって順調に推移してきたものの、近年の燃油・資材の高騰などにより、自営の定置網漁業は厳しい経営状況にあった。そこで検討されたのが、当初、食用の魚のみを販売していたことから、定置網にかかる食用以外の魚を活用することだった。沖縄の美しい海と回遊する魚の特徴から、観

賞用魚販売への挑戦が始まった。

**観賞用、食用、活魚出荷に活路を見出す**

主に定置網にかかるサメ・エイ類や熱帯魚を観賞用魚として販売するために相談を持ちかけたのが、当再生委員会のオブザーバーであり、沖縄美ら海水族館を運営する(一財)沖縄美ら島財団だ。お互いの利害が一致したことから業務提携を進め、第一弾として韓国の水族館へ、次いで名古屋、大阪、東京都と国内の主要水族館への販売が行われた。財団側は魚を傷付けずに捕獲する

方法や輸送時の水質管理などの技術ノウハウを提供。一方、漁業者側は時期や漁場ごとに獲れる魚を把握していることから、消費者が求める観賞魚の漁獲を援助する役割をもった。

好調な販売をさらに増進させるため、平成27年10月、国頭漁業協同組合と沖縄美ら島財団との共同出資で、観賞用魚の捕獲・蓄養・輸送・販売を行う子会社、OKINAWA SAKANA COMPANY(OSC株)を設立。観賞用魚販売に加えて、食用の活魚販売、水槽のリース・管理事業など独自性のある事業を展開している。OSCの設立に先立って、活魚出荷

のノウハウを活かし、平成26年4月、定置網漁業で獲れた食用魚を漁獲されたその日に提供する直営食堂「国頭港食堂」をオープン。鮮魚では味わえない新鮮さを売りにした料理が好評を得ている。

さらに、食用の活魚を水槽リースとパッケージにして県内各飲食店等に提案をおこない、需要の拡大を進めているところだ。

その他、定置網漁体験ツアーなど観光業にも参画するなど、多方面で事業を拡張し、地域産業に大きな影響と効果をもたらしている。

**漁業だけでなく、周辺の産業にも経済効果を**

定置網漁業が再開されて以降の取組は、全国でも稀に見る観賞用魚の輸送・販売事業、地元財団との共同出資による子会社設立、居酒屋チェーンの展開など多様な産業に事業を展開していることが特徴だ。

その背景には、地元水族館や民間企業、バックアップ役としての県など行政の存在があり、広く地元関係者との連携を進めていることが、取組みの推進力になっている。

表彰選定委員会でのコメント (一部抜粋)

「取組のすべてがつながっている点、組合員・組合も参加している点が評価につながっている」  
「周辺産業への連携・貢献が高く評価される」

**再生委員会 情報**

- 委員会名：国頭地区地域水産業再生委員会 ●代表者：大嶺 嘉昭
- 構成メンバー：国頭漁業協同組合、国頭村、国頭村商工会、国頭村観光物産株式会社
- 対象地域：沖縄県国頭村 ●対象漁業：定置網漁業、追込漁業、一本釣り漁業、モズク養殖、イカ漁業 等

浜プラン詳細

